



## 薩摩半島西岸沖から得られた九州初記録のオオヒシマトウダイ

檜垣健介<sup>1</sup>・伊東正英<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学大学院農林水産学研究所（鹿児島市）  
k8189617@kadai.jp

<sup>2</sup> 笠沙町漁業協同組合（南さつま市）

<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）  
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 22 March 2026  
Revised 26 March 2026  
Accepted 27 March 2026  
Published 28 March 2026  
DOI 10.34583/ichthy.65\_0\_29

Kensuke Higaki, Masahide Itou and Hiroyuki Motomura. 2026. First Kyushu record of *Grammicolepis brachiusculus* (Grammicolepididae) from west of the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 65: 29–32.

### Abstract

A single juvenile specimen (142.0 mm standard length) of *Grammicolepis brachiusculus* Poey, 1873 (Grammicolepididae), distributed in Japan, East and South China seas, Australia, New Zealand, New Caledonia, Hawaiian Islands–Handcock Seamount, South Africa, Caribbean Sea, western Atlantic (New England–Venezuela), and eastern Atlantic (Spain and Morocco), was collected at a depth of 400 m off Nomaike, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. In Japanese waters, the species has previously been recorded only from Suruga Bay, Tosa Bay, and the East China Sea. Thus, this specimen, described herein in detail, represents the first record of *G. brachiusculus* from Kyushu.

ヒシマトウダイ科 (Grammicolepididae) は世界から 2 亜科 3 属 3 有効種が知られ、オオヒシマトウダイ属 (*Grammicolepis* Poey, 1873) はオオヒシマトウダイ *Grammicolepis brachiusculus* Poey, 1873 のみが知られる単型属である (Karrer and Heemstra, 1986; 中坊・甲斐, 2013)。本種は分布が重複し形態がよく似たヒシマトウダイ *Xenolepidichthys dalgleishi* Gilchrist, 1922 に比べ、背鰭棘条数が通常 7、稀に 6 と多いこと (後者では通常 6、稀に 5)、背鰭と臀鰭の軟条数がそれぞれ 32–34 と 33–35 と多いこと (それぞれ 27–31 と 27–29)、成魚の臀鰭棘間に固定機構がないこと (ある)、眼の上の頭部背縁がほぼ直線かわずかに膨らむこと (湾入す

る)、口がわずかに斜め上を向くこと (顕著に斜め上を向く)、および体長 19 cm 以下の幼魚の体側には棘状の小骨板があること (小骨板はない) で区別される (Tyler et al., 2004; 中坊・甲斐, 2013)。

2023 年 11 月に鹿児島県薩摩半島西岸沖から 1 個体のオオヒシマトウダイが採集された。本種は国内では駿河湾、熊野灘、および土佐湾からのみ知られており、薩摩半島から得られた標本は鹿児島県ならびに九州における本種の初めての記録となるためここに報告する。

### 材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1958) にしたがった。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位で行い、少数第 2 位を四捨五入し 0.1 mm 単位で表記した。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。計測値は体長に対する百分率で示した。生鮮時の色彩の記載は固定前に撮影された標本 (KAUM-I. 192892) のカラー写真 (Fig. 1) に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。なお、オオヒシマトウダイは Poey (1873) により *Grammicolepis brachiusculus* として新種記載され、その後も多くの文献ではこの学名が用いられている (例えば、Carvalho-Filho et al., 2012; Sáez and Lamilla, 2017)。一方、中坊・甲斐 (2000) は根拠を示さずに本種を *G. brachiuscula* と表記し、その後、中坊・甲斐 (2013) は本種の属名の性 (女性) と種小名の語尾に齟齬があることに言及し *G. brachiuscula* とするのが正しいとした。しかし、*brachiusculus* は単数主格の名詞であるため、属の性に関わらず種小名は語尾変化しない。そのため、本報告ではオオヒシマトウダイの学名を *Grammicolepis brachiusculus* と表記した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。観察標本は背鰭、胸鰭、腹鰭、および臀鰭の鰭膜が全て欠損し、尾鰭鰭膜のみ一部が残存していた。

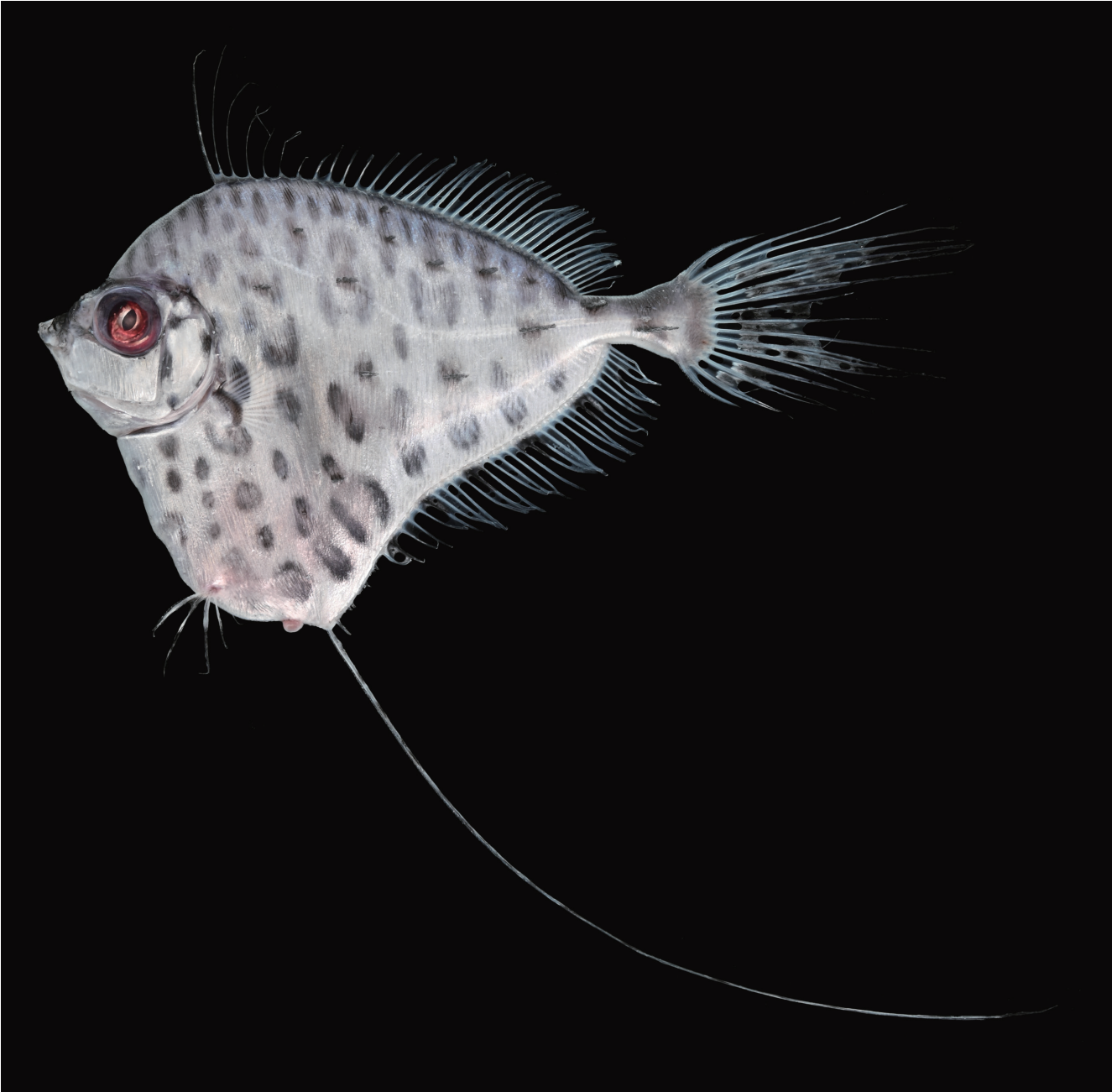


Fig. 1. Fresh specimen of *Grammicolepis brachiusculus* (KAUM-I. 192892, 142.0 mm SL) from Tsukurase, off Nomaike, Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

***Grammicolepis brachiusculus* Poey, 1873**

**オオヒシマトウダイ**

(Fig. 1)

**標本** KAUM-I. 192892, 体長 142.0 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町野間池南沖 津倉瀬南東 (31°10'56"N, 129°52'58"E), 水深 400 m, 底曳網, 2023 年 11 月 27 日, 伊東正英.

**記載** 背鰭鰭条数 VII, 32; 臀鰭鰭条数 II-33; 胸鰭鰭条数 15; 腹鰭鰭条数 I, 6; 尾鰭主鰭条数 8+9; 側線鱗数 101; 鰓耙数 1+12. 体各部の体長 (SL) に対する割合 (%): 頭長 29.1; 体高 72.6; 背鰭前長 34.9; 臀鰭前長 63.8; 胸鰭前長 29.9; 腹鰭前長 48.9; 尾柄高 7.0; 尾柄長 13.5; 背鰭

基底長 59.0; 臀鰭基底長 62.6; 胸鰭長 12.9; 腹鰭長 15.8; 尾鰭長 46.8; 吻長 10.2; 眼窩径 11.1; 眼窩後長 8.8; 両眼間隔 8.0; 上顎長 3.4; 下顎長 3.1.

体は強く側扁する. 体の輪郭は側面からみてほぼ三角形を呈し, 体高は臀鰭起部で最大となる. 尾柄は細い. 頭部は小さい. 吻は短く, 尖る. 鼻孔は 2 対あり楕円形で, 前鼻孔は小さく, 後鼻孔は非常に大きい. 口は端位で嘴状であり, わずかに斜め上を向く. 両顎に微小な円錐歯が 1 列に並ぶ. 鋤骨歯はない. 眼は大きい. 両眼間隔幅は吻長とほぼ同じ. 背鰭は起部が鰓蓋後縁の上方に位置し, 基底後端は尾柄部まで達する. 背鰭は第 1, 2 棘条が伸長し, 後方に向かうほど徐々に短くなり, 第 7 棘条が最も短い. 背鰭軟条部は後方に向かうほど長くなり, 第 18 軟条が最

も長い、その後徐々に短くなり、最後軟条は第1軟条と同程度に短い。臀鰭は第1棘が著しく伸長し、その先端は尾鰭後端を越える。臀鰭棘部は鰭膜をもたず軟条部から離れる。臀鰭軟条部は不分枝で第1軟条はやや短く、後方へ進むにつれて長くなり第24軟条が最長。胸鰭は扇形で、第5軟条が最長。胸鰭は起部が主鰓蓋骨後端に近接する。背鰭と臀鰭の基底に沿って小棘が1列に並ぶ。背鰭と胸鰭の軟条は不分枝。腹鰭は扇形で、起部は胸鰭基部下方向にある。尾鰭は中央より上部と下部の鰭条が伸長し、湾入する。体、頬部、および鰓蓋全体は垂直方向に伸長した細長い鱗で覆われる。体側全体には棘状の小骨板が不規則に存在し、左体側には15個、右体側には13個の小骨板がある。

**色彩** 生鮮時 (Fig. 1) 一体は銀色を呈し、背鰭基底部はやや青みがかかる。背側には垂直方向に長い黒斑が一定間隔で存在し、体側および腹側には大きさが不規則な黒斑が多数存在する。背鰭軟条部は白色。胸鰭は半透明の白色で、基底部および第1棘が黒色。腹鰭は外側のおよそ半分が黒色で、内側が白色。臀鰭棘部は半透明の白色で、不等間隔に黒色域が存在する。臀鰭軟条部には黒斑が等間隔で6個存在する。尾鰭鰭膜は外縁部が黒色で、基底部付近は透明である。尾鰭の鰭膜は黒い。小骨板は黒色。

**分布** オオヒシマトウダイは日本 (駿河湾, 熊野灘, 土佐湾), 東シナ海, 台湾南部, パラオ, ウェーク島, ハワイ島-ハンコック海山, ニューゼーランド, ニューカレドニア, オーストラリア南東岸・北西岸, チリ (サン・フェリクス島), カリブ海, メキシコ湾, 西大西洋 (ニューイングランド-ブラジル), 東大西洋 (アイルランド-ガボン), 南アフリカ (サルダナ湾-ダーバン), インド洋 (マダガスカル) に分布する (Moore et al., 2003; Carvalho-Filho et al., 2012; Valdimarsson et al., 2012; 中坊・甲斐, 2013; Sáez and Lamilla, 2017; Myers et al., 2025)。本研究により鹿児島県の薩摩半島西岸沖からも新たに本種が記録された。

**備考** 記載標本は、背鰭棘条数が7であること、背鰭軟条数が32であること、臀鰭軟条数が33であること、眼の上の頭部背面がわずかに膨らむこと、口はわずかに斜め上を向くこと、体側に棘状の小骨板があることなどの特徴が、Carvalho-Filho et al. (2012) と中坊・甲斐 (2013) の示すオオヒシマトウダイ *Grammicolepis brachiusculus* の特徴と一致したため、本種に同定された。本種の側線鱗数は主な先行研究において109-122とされている (Gavin and Inada, 1990; González et al., 2000; Carvalho-Filho et al., 2012)。ただし、山田・入江 (1990) は本種の側線鱗数を94-98としており、それまでの報告との差から本種に分類学的な問題がある可能性を示唆した。本標本の側線鱗数は101であり、前者と後者の間の値であったことから、本研究においては山田・入江 (1990) の値は種内変異の範疇であると判断した。

本種は成長変異に伴い pre-juvenile, juvenile, adult の成長段階に分けられる (Carvalho-Filho et al., 2012)。本研究で記載した標本は体高が高く (体長の72.6%)、背鰭と臀鰭の前方の鰭条が著しく伸長すること、尾鰭が二叉状であること、および体表に棘状の小骨板があることから、juvenile に相当する。本種の小型個体は臀鰭第1棘が伸長し膜状の付属物を複数もつが、欠損することが多く (Carvalho-Filho et al., 2012)、本研究で記載した標本でも付属物が欠損していた。

オオヒシマトウダイの記録は「分布」の項目で述べた通りである。中坊・甲斐 (2013) の示す本種の東シナ海からの分布記録は水産研究教育機構に所蔵されている1標本 (SNFR 14403) によると思われるが、正確な産地は不明である。そのため、本研究で記載した標本はオオヒシマトウダイの九州における初めての確かな記録となる。

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。また同博物館研究支援推進員の金井聖弥氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。高知大学理工学部生物科学科の饗場空瑠氏には文献を提供いただいた。Ichthy 編集委員の木村祐貴氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)、JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

## 引用文献

- Carvalho-Filho, A., G. Marcovaldi, F. A. Ribeiro, M. I. G. Paiva and C. L. S. Sampaio. 2012. New records of *Grammicolepis brachiusculus* Poey, 1873 (Zeiformes: Grammicolepididae) in Brazilian waters, with a key to Western Atlantic species of Grammicolepididae. *Check List*, 8: 626-629.
- Gavin, D. J. and T. Inada. 1990. Grammicolepididae, p. 225. In Amaoka, K., K. Matsuura, T. Inada, M. Takeda, H. Hatanaka and K. Okada (eds.) *Fishes collected by the R/V Shinkai Maru around New Zealand*. Japan Marine Fishery Resource Research Center, Tokyo.
- González, J. A., V. Rico and J. L. Santana. 2000. Capture of *Grammicolepis brachiusculus* Poey, 1873 (Grammicolepididae) off the Canary Islands. *Scientia Marina*, 64: 107-109.

- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1958. Fishes of the Great Lakes region. University of Michigan Press, Ann Arbor. xv + 213 pp., 44 pls.
- Karrer, C. and P. C. Heemstra. 1986. Family No. 140: Grammicolepididae, pp. 440–441, pl. 24. In Smith, M. M. and P. C. Heemstra (eds.) Smiths' sea fishes. Southern Book Publisher Ltd., Johannesburg.
- Moore, J. A., K. E. Hartel, J. E. Craddock and J. K. Galbraith. 2003. An annotated list of deepwater fishes from off the New England region, with new area records. *Northeastern Naturalist*, 10: 159–248.
- Myers, R. F., D. R. Burdick, B. C. Mundy, S. J. Lindfield, B. Tibbatts and T. J. Donaldson. 2025. New and recent records of fishes from the Mariana Islands, western Pacific Ocean. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 42: 15–90.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作成と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2000. ヒシマトウダイ科, pp. 509, 1506. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. ヒシマトウダイ科, pp. 602, 1903. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Poey, F. 1873. *Grammicolepis brachiusculus* tipo de una nueva familia en la clase de los peces. *Anales de la Sociedad Española de Historia Natural*, 2: 403–406, pl. 12.
- Sáez, S. and J. Lamilla. 2017. Taxonomic update and illustrated key of Zeiformes from Chile (Pisces: Actinopterygii [sic]). *Latin American Journal of Aquatic Research*, 45: 94–103.
- Tyler, J. C., B. O'Toole and R. Winterbottom. 2004. Phylogeny of the genera and families of zeiform fishes, with comments on their relationships with tetraodontiforms and caproids. *Smithsonian Contributions to Zoology*, 618: i–iv + 1–110.
- Valdimarsson, H., O. S. Astthorsson and J. Pálsson. 2012. Hydrographic variability in Icelandic waters during recent decades and related changes in distribution of some fish species. *ICES Journal of Marine Science*, 69: 816–825.
- 山田梅芳・入江隆彦. 1990. オオヒシマトウダイ *Grammicolepis brachiusculus* Poey 1873. *西海区水研ニュース*, 65: 1.